

## 安全は自らの努力で

日本人は他の国の人に較べて危機管理や自己防衛の術を知らない。外国旅行者によく注意される。子供も兄弟や仲間同志で遊ぶ機会も少なく、喧嘩やいじめも度が過ぎる、など自らを守ることも他人の痛みを理解することも下手になっている。

高速道路の事故では何重衝突と報道されることが多く、一般道路、高速道を問わず、車間距離を狭めて走る車が多い。車間距離を速度に応じてとると、割り込む車も多い。割り込んだ車の運転者は非常識で、危険だから、十分車間距離をとろうと考える人は案外少ない。むしろ更に割り込む車がないように車間距離をつめて走る人が多い。また、後からピタット近づいて車線変更や加速を促す車もいる。いずれも、自己防衛の能力のない自己中心的な運転で、前を走る運転者の能力も運転思想も無視している。これから逃げる勇気こそ必要であり、自分を守ることは他者を守ることの第一歩であることを認識しなければならない。

## 意志の明確な伝達と 約束事の遵守

協調と共生の社会では、正確でタイムリーな意志の伝達はもつとも重要であり、相手に

必要なことを知らせるのに手を抜くことは許されない。日本人は外国人に較べて口下手で要領が悪く、以心伝心に頼ることが多い。

自動車や単車、自転車で行中はウインカーやブレーキランプ、補助として手を用いて、右左折や停止、減速の合図をしなければならぬ。これが運転中に意思を伝える唯一の方法である。最近では車線変更して割り込む車や単車でもウインカーで合図をしないことがしばしばある。ウインカーの出し遅れや無合図のため、止むなく急ブレーキで難を避けた経験をもつ人は案外に多くなっている。

お互いの信頼関係のもとに成立つ協調と共生の社会では、意志の正確かつタイムリーな伝達と約束事は正確に実行し、守ることが重要であり、以心伝心に頼ったり、適当にごまかすことは許されない。

## 協調と共生は日常の心構えから

誰もが感じることであるが、人間はどうも身勝手なところがある。楽しそうに話し合いながらゆつくりと歩く人を見て、自転車に乗っている人は「もつと速く歩けばよいのに」と、自分が歩行者の時は、「自転車はもつと遠慮して、おとなしく走れば」と思う。前の車と十分な車間距離をとっていないのに、ウインカーの出し遅れのため急ブレーキを踏み、危ない思いをすると、腹立たしさを感じる。お互いが相手の立場になって、思いやりと優しさを持ち、お互いの立場を尊重し合うよう日常の行動を通して努力することは協調と共生の社会の構築には欠くことのできない重要な事柄である。自然に優しい、人々に優しい社会を目指し、二二世紀の夢とロマンをもちたい。

## 若年者の交通事故実態と防止方策

西条警察署 交通課長

深見 美千雄

### 若年者の交通事故は今

平成三年中、県下において発生した、若年

者（一六～二四歳）による交通事故の状況は、

○件数四、八七六件（全体の三〇・三％）

○死者 七六人（全体の二七・二％）



○傷者六、七七〇人（全体の三二・五％）である。

発生件数の全体に占める率と、免許保有者全体に占める若年者の率（一五・九％）を比較すると、一四・四ポイントも高く、若年者の事故率が、いかに高いかが分かる。

### ☆事故の特徴は

若年者による事故の特徴を二つ挙げてみると、先ず、「夜間」に多発している。全体の夜間事故に比べて、約一〇ポイントも高い。

これは、若年者の生活が、夜型に傾いてきたのと、気の緩み等からくるものと思われる。次に目立つのが、「交差点の出会い」事故である。これも、全体の交差点事故に比べ

と、やはり約一〇ポイントも高い。これは、一般的に「自己中心的」な風潮があり、相手に譲る気持ち薄れてきているからである。特に、若年者にこの傾向が強いのではないかと思われる。

### ☆事故の原因は

若年者による事故原因の主なものを、二つ挙げてみると、先ず「運転未熟」によるものが多い。運転免許を取得して二〜三年経つと、車を自由自在に操作できるようになる。これを「運転が上手になった」と勘違いして、速度を出し過ぎたり、無謀な運転をするため、事故につながるのである。

次に、事故の原因の最たるものは、「速度の出し過ぎ」である。

速度を出し過ぎることにより、停止距離が長くなったり、遠心力が強くなるなどの作用が、交通事故の要因となっている。

特に、若年者は、猛スピードで走ることは、格好が良いものであるという、誤った考え方の人が多い。

※以上、若年者による交通事故実態の一端を述べたが、西条署管内（東広島市・賀茂郡五町）においても、同様の傾向を示しており、大学生による交通事故も多発している。

### 若年者の交通事故を防ぐには

交通事故の実況見分をしてみると、どれも

交通違反が潜んでいる。特に、交通死亡事故の場合は、悪質・危険な交通違反（無免許・飲酒・速度超過等）によって起きている。特に、若年者ほど、その無謀さが目立つのには驚いている。

ここで、交通事故現場から得た「教訓」の主なものを挙げてみよう。

### ☆夜は暗い

夜間に、車対歩行者の交通事故が多発している。その殆どが「まさか道路の真ん中に、歩行者はいないであろう」という安易な気持ちで、前方注視を怠っている。

夜は、暗くて非常に見えにくいので、しっかりと前方を注視することが肝要である。

### ☆互譲の精神で

見透しが良く、お互いが遠くから見える交差点での、出会い事故が非常に多い。

ハンドルを握ると、「自分さえ良ければ……」という気持ちは捨てて、常に、「ゆとり」と「譲りあい」の精神で、十分な安全確認が必要である。

### ☆スピードは敵

速度の出し過ぎによる路外逸脱・激突、正面衝突など、死亡事故や重大事故が目立つ。

車は、早く目的地へ行くために造られたものであるが、自ずと「安全速度（道路及び車の構造等に応じた安全な速度）」というものがある。

超過速度と事故発生率は比例している。